

私立 千葉商科大学附属高等学校 シラバス

商業科 「財務会計Ⅱ（３年商業科会計型）」	単位数	4単位	学科	商業科
	学年	3	組	I

1 学習の目標、評価の観点、内容及び評価方法

学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

育成する資質能力	「向上心」「自律」
学校ルーブリック項目	「向上心」「自律」「自己肯定感」「友愛」「創造性」「社会貢献」「思考力」「判断力」「表現力」「人間関係力」

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	実務や新しい分野の会計に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、新会計基準や税法の基本的な考え方・処理などを理解し、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともにその成果を適切に表現できるか。	実務や新しい分野の会計について、疑問をもち、自ら思考を深め、基礎的・基本的な技術と知識を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけているか。	実務や新しい分野の会計に関心を持ち、基本的かつ実践的な知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、会計を活用して企業の実態を的確に捉えることができる態度を身につけているか。
評価方法	定期考査	定期考査	検定試験 振り返りシートや授業態度
配分	70%	20%	10%

2 学習計画・使用教材

学期	学習内容	学習のねらい	備考（特記事項、他教科との関連など）
第1学期	第1章 財務会計の基本概念 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合 第4章 資産会計 第5章 負債会計 第6章 純資産会計 第7章 損益会計 第8章 リース会計 第9章 税効果会計	○財務報告の意味とその目的について理解させます。 ○財務報告における情報の特性、意思決定有用性について理解させます。 ○財務諸表の構成要素の意味と構成要素の個々の定義について理解させます。 ○財務諸表の構成要素の認識と測定について理解させます。 ○財務諸表の構成要素の定義に関するアプローチの手法を理解させます。 ○わが国の会計基準の特徴を整理し、会計基準の国際的統合の流れを理解させます。 ○資産の評価基準である原価基準と時価基準について整理し、公正価値の意味を理解させます。 ○負債の意味を明らかにし、金融負債の評価方法について理解させます。 ○純資産の意味と分類を理解させます。 ○新株予約権の意味と一連の会計処理について理解させます。 ○分配可能額の計算を理解させます。	課題研究の授業と連動し、全商簿記検定1級や日商簿記検定2級の受験が可能

		○株主資本等変動計算書を作成する目的と作成方法を理解させます。 ○リース取引の目的と意味、会計処理の方法を理解させます。 ○利益・課税所得・益金・損金などの法人税に関する計算方法を理解させます。 ○税効果会計の意味を理解させます。 ○一時差異と繰延税金資産・繰延税金負債を用いた仕訳を理解させます。	
第2学期	第10章 外貨換算会計 第11章 キャッシュ・フロー計算書 第12章 企業結合会計 第13章 連結財務諸表の作成(その1) 第14章 連結財務諸表の作成(その2) 全商財務諸表分析検定試験に向けた問題演習	○外貨建取引の意義、為替換算と為替差損益に関する会計処理を理解させます。 ○キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性について理解させます。 ○キャッシュ・フロー計算書の表示区分及び表示方法を理解させます。 ○企業結合会計の意義を理解させます。 ○吸収合併の意味とその会計処理について理解させます。 ○連結財務諸表を作成する目的と、連結の範囲について理解させます。 ○持分の変動について、段階取得・追加取得・子会社株式の一部売却があることを理解させます。 ○連結財務諸表の作成方法について理解させます。 ○連結キャッシュ・フロー計算書の作成方法と表示方法について理解させます。	課題研究の授業と連動し、全商簿記検定1級や日商簿記検定2級の受験が可能
第3学期	なし	なし	なし

使用教科書	実教出版『財務会計Ⅱ』
副教材	なし

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	繰り返し問題演習に取り組み、知識の定着に努めましょう。簿記は卒業後の人生にも必須な知識です。家庭での復習時間を確保し、目的意識をもって学習に取り組みましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	皆さんが将来、経営者や投資家・株主になった際に必要な財務諸表の分析手法や比率分析の学習を行います。単に財務諸表の利益だけで企業を評価するのではなく、様々な視点で会計情報を活用できるような知識を身につけましょう。
その他のアドバイス	授業時に使用する電卓や教科書等の忘れ物をしないようにしてください。 日商簿記検定2級や全商財務諸表分析検定などの多様な資格取得が可能になっています。 目標を高く設定し、自らの強みをさらに高めましょう。